

ボランティア・ニュース 第5号

シリーズ 博物館の展示

6月中旬に松枝先生と阿部先生が解説された2階西側について紹介しましょう。一番奥の白い模型や明治35年の図書館図面などにより札幌農学校の当時の様子を詳しく知ることができます。ここでは研究方法の歴史の変遷をたどることができます。一番奥には1900年購入の植物園博物館開設当時の事務机があります。昆虫の標本箱の変遷を松村松年時代から現在まで見学できます。

植物標本はクロンキストの分類体系で並べられ、奥が原始的グループで手前が進化的グループです。



真中の展示は生薬（漢方薬）です。樹皮付きの材標本には多数の樹種名が書かれ、林

学科に保管されていたものです。

昆虫類に含まれる目のうちチョウ目（鱗翅目）と甲虫目（鞘翅目）の全世界から知られている全ての科を示しているが、空白の科は外国特産のため当博物館に標本が無い科です。順次、他の目・科も展示を予定しています。壁の円グラフにも目を向けましょう。

確実な持続的維持管理のため、標本が痛むので展示室の電灯は暗くしています。観察には懐中電灯（自家発電）を御利用ください。

地球の70%は海です。隕石のぶつかり合いでできた原始地球はどろどろに溶け、マグマオーシャンを形作りました。その後、次第に冷却してゆく

過程で、火山活動に伴う火山ガスからもたらされた雨が地上に降り注ぎ海となり、水の惑星地球が形作られました。海底地形には凸凹があり、特に太平洋のハワイ列島のような火山島の西方延長は海に潜るようになり、海底にはその火山列が見られます。通常、火山島の周りにはサンゴが堡礁を作り、プレートの移動に伴う火山島リング状の

サンゴ礁ができてゆき、最後には海面下に沈んで海山となります。海山を乗せたプレートは次第に移動し、



大陸縁や島弧にぶつかり沈み込んで行きます。現在では、この沈み込みの速度は平均でおよそ1年間に約10cmの速度であるといわれています。プレートの移動方向は、過去には北西へ向かって動いていましたが、その後、移動方向が変わり西向きとなり、現在では日本へ向かって移動しています。プレートが沈み込むことにより、地震と火山活動が起きます。フィリピン、インドネシア、千島、カムチャッカ、アリューシャンなどの島弧環境では同様にこのような動きが生じています（海底地形模型参照）。これらは、これまで及び現在行われている様々な分野における海洋研究によって明らかにされ始めています。タッチパネルでは各種の海洋研究（特に海流や海洋気象など）の現状や成果を見ることができます。

本稿は久万田先生、松枝先生、高橋先生の御指導によるものです。

（文責、星野・小俣）

2006 年度総会開かれる

5月26日 50名を超える盛会で総会を開催した。最初に藤田館長から挨拶があり、久万田会長から昨年夏のマンモス展協力のお礼と7月に開催されるモンゴルの国宝級の恐竜展示解説もよろしくと話された。中野さんから2005年度事業報告及び今年度の事業計画案が提案され了承された。マンモス展示では半日張付き延べ195人、実人数20人が協力したこと。談話会を3回開催し、ボランティアニュースは3回発行したことが報告された。

あらたに2つのグループが登録され、館長が平成遠



ボランティアの会会長就任のご挨拶

在田一則

去る5月26日に行なわれた北海道大学総合博物館ボランティアの会総会において、久万田敏夫前会長から後任として指名され、認められました。よろしくお願ひいたします。

私は昨年3月まで北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻に所属し、日高山脈やヒマラヤ山脈のいわゆる衝突型山脈の地質構造や形成機構などを研究してきました。定年退職後は、北海道大学総合博物館資料部研究員をやっています。

在職中も資料部研究員を兼務していましたが、博物館に直接関わったこととしては、地球科学関係の展示試料の採集をお手伝いした程度でした。現在は研究員として通っていますが、土・日曜日は子供から年配の方まで館内はけっこう賑わっているのを実感しております。

大学はこれまでは教育と研究の機能が重視されて来ましたが、昨今はもう一つ、知の発信の場としての機能が重視されています。そのさい、大学・社会間のもっとも重要な接点が図書館であり、博物館であると思います。図書館と博物館は大学内においては、各学部・研究科を横断する組織で

友夜学校、天野先生が留学生協議会を紹介。それぞれから自己紹介があった。2006年度登録メンバーは総勢98名になった。

事務係長の木村さんから展示解説講習会開催予定が提案された。

全員拍手で新会長は在田先生、新事務局は永山、持田、望月(留任)を承認した。新会長は地元の特徴ある博物館として良好な運営のためにボランティアの会の協力が必要であると訴え各グループ長を中心にサポートを宜しくと挨拶した。(

あり、学内では特異な位置にあるといえます。図書館は昔から大学のシンボルであります。博物館は新顔であり、大学博物館の機能と役割の検討はまだ途上にあるといえます。

社会と大学との接点である博物館のなかで、社会あるいは来館者と博物館との接点はボランティアではないでしょうか。これは、展示・解説ボランティアだけではなく、各専門分野のボランティアにもいえることと思います。したがって、ボランティアは各自の専門分野だけでなく、博物館(博物館の場)という絶好の場を利用して、自分の興味のある分野だけではなく、広い分野に首を突っ込みたいものです。私自身はそのように願望していますが、言うは易く、行なうは難し、のようです。

幸い北大総合博物館は評判もよいようですので、教職員、支援スタッフ、ボランティアの3者でさらに力を合わせ、札幌の中心にあるという地の利を生かし、北大のキャンパスそして札幌の知の中心になりたいものです。

企画展示 モンゴルの恐竜 —大型恐竜と鳥類の進化—

7月22日(土)から8月26日(土)まで3階企画展示室で、モンゴルの恐竜化石等が展示されます。

展示される恐竜化石は実物が半数以上。中には国宝級のものも含まれています。ボランティアの会では大切なものを壊されたり、盗まれたりしないように監視役と解説役を務めることを5月の総会で決めました。

展示される化石はタルボサウルスの頭骨、サウロロフス頭骨、ハルピムス前身骨格、ガリミムス

前身骨格、イグアノドン科部分骨格、ハドロサウルス幼体等々。オビラプトル抱卵など珍しいものもあります。

まだまだ人手が足りません。ボランティアを募集していますので、よろしくご協力御願います。(7月29日から8月20日まで、月寒グリーンドームで開催されるロボット博にも協力を要請されています。こちらもよろしく)

展示解説研修会が開かれました

博物館が企画して、6月12日、19日の両日各3時間半にわたり、1階～3階まで、博物館教員による展示解説研修が開かれました。

参加者は延べ30人を超え、大盛況。先生方の白熱した解説にボランティアも熱心に質問したり、納得したり。このような研修会は初めてのことでしたが、大変ありがたかったとボランティア一同大感謝です。

曜日の都合等で参加出来なかった人からはまたやって欲しいという声も聞かれました。3時間はちょっと疲れる(理解することが多すぎて頭に入らない)ので、今度はボランティアの会が企画してスポットでやってみてはどうでしょうか。

お忙しいなか解説してくださった先生方、どうもありがとうございました。

教員による解説風景



4月～6月の活動報告

今年度のボランティア活動状況をお知らせします。ボランティアを募集しているグループもありますので、希望される方はホームページにアクセスしてみてください。

6月、東京農工大のボランティア 坂山さんとボランティアを思っていることや悩みなどの意見交換をしました。参加者は大原先生、星野さん、中野さん、沼田さん、永山さんの5名でした。

日本未来科学館では愛知万博で展示された「ユカギルマンモス」が7月 日～9月10日まで展示されます。未来科学館担当者からマンモス展開催時のボランティアの活動について懇談したいと事務所に依頼があり、6月 日、寺西さんが面談しました。寺西さんが沢山の資料を渡したお礼にと未来科学館から、招待状が5枚届いています。希望する方は事務局まで連絡下さい。

6月22日～23日、総合博物館がホスト役で開催された博物館等協議会（博物科学会）の博物館見学会にボランティアの会として協力しました。

他大学の博物館教員約30名が22日と24日午前に見学に来ました。当日になったらその道の専門家ばかりと判明。そんな話聞いてないよとちょっと逃げ腰になりましたが、先生方は専門家の話ではなくボランティアが解説しているところを聞きたいなどとよいしょしてくれるので、覚悟を決めてスタンバイ。ところがいざ解説にはいると先生方からの質問にも堂々と答え、感嘆の声も聴かれました。協力して下さった中野さん、寺西さん、稲荷さん、望月さん、永山さんありがとうございました。

小学校、中学校からの解説依頼が数件ありました。沼田さん、中野さん、村井さん、望月さんが担当しました。ご苦労様。

フェアブル昆虫展に向けてフランスの昆虫標本作りが始まりました。久万田前会長をはじめ、

青山さん、宮さん、喜多尾さん、松本さん、稲荷さん、永山さん、村井さん、斉藤さん、芳田さん、小原さん、山本さんが活動しています。

植物標本ボランティアグループでは標本整理を中心に活動しています。佐藤さんを始めとした北大学生グループ、矢島グループ、与那覇さんの植物標本グループが活動しています。

化石グループでは、化石クリーニング、化石整理等を地道に継続的に活動しています。中野さん、石橋さん、安田さん、寺西さん、岡田さん、細川さん、田中さん、望月さん、相原さんが活動しています。

地学グループでは企画展・誕生石展の展示更新を毎月行っています。前月の最終日に更新するので夜中になることも。高価なものだけに気が抜けません。岡田さん、佐々木さん、寺西さんが中心になって作業しています。

2006年度グループ会議を持ちましょう

同じグループに属していても活動日や時間帯の違いで顔を知らない人も多いようです。今年度は会員名簿を整理し、活動しやすくしましたので、一度グループ会議を開いて交流してみませんか。昨年度のリーダー（ボス）さん、呼びかけをよろしく申し上げます

2005年度事務局のみな様 ご苦労さまでした

ボランティアの会をつくり、発足からずーと頑張ってくられた久万田会長、星野さん、中野さん、長屋さんどうもご苦労さまでした。

事務局からのお願い

ボランティア登録用紙が新しくなりました。併せて、活動記録用紙（個人用、グループ用）をつくりました。どちらもホームページからダウンロード出来ます。1年間にどの位活動したかを記録し、活動の励みにしたいと思っています。但し、「勤務評定」ではありませんので、つけるのは自由です。

ボランティア・ニュース

編集・発行

北海道大学総合博物館ボランティアの会
(担当者:星野、沼田、永山)

発行日:2006年7月

連絡先

060-0810 札幌市北区北10条西8丁目